

令和6年 5月 24日

学校名 鈴鹿市立鼓ヶ浦小学校

学校長名 池畑 直哉

## 令和6年度 校内研究実施計画書

### 1 研究主題及び教科

研究主題	<b>自ら考え、学びあう子どもの育成</b> <b>～伝えあう喜びを実感できる授業づくりを目指して～</b>
教科・領域	国語科

### 2 主題設定の理由

本校では、学校教育目標「知・徳・体 調和のとれた子どもの育成」のもと、「(1)自分も他者も大切にする子。『心豊かな子』」「(2)自ら学び、考えて行動する子。『学ぶ子』」「(3)地域に愛着と誇りをもつ子。『鼓の子』」を目指して日々の教育活動を行っている。

児童数は、年々減少傾向にあり、6学年全て単学級になっている。それゆえ、本校でも、固定化した人間関係や多様な考えに接する機会が限られてしまうといった小規模校特有の課題が存在している。特に学習場面では、学年が上がるにつれてこれらの課題が顕著に表れる。また、「難しい問題は、あの子が答えてくれる」「この子に任せておけばうまく説明してくれるだろう」といった、他人任せで主体的に学習に取り組むことに苦手感をもつ児童がどの学年にも見受けられる。

平成29年度に施行された現行の小学校学習指導要領においては、『主体的・対話的で深い学びの実現』が求められている。教科指導においては、これまでのような教師主体の授業から、児童主体の授業への転換が求められている。つまり、児童が主体的に課題と向きあい、その解決方法を他者と関わりあいながら見出し

ていくといった、アクティブな学習活動が重要視されている。まさに、本校の課題となっている、他人任せの学習からの脱却、そして多様な考え方に接する中でよりよい解決方法を見出していく、といった学習が求められているといえる。

令和5年度は「自ら考え、学びあう子どもの育成～わかりあう喜びを実感できる授業づくりを目指して～」を研究主題とし、国語科において研究を行った。

「自ら考える」姿を目指すために、単元のまとまりを見通した授業計画を行い、めあてや学習課題を明示し、児童に学習の見通しをもたせたり、既習の用語・方法等を掲示し活用しやすくしたり、机間指導を通してヒントを与えたり、承認・励ましの声をかけたりした。そうしたことで、その時間に「何を考えるのか」「何をできるようにするのか」等の学習の見通しをもち、学習の目的を意識して、意欲的に取り組む児童の姿がみられた。

その一方で、基礎学力が定着しにくく、「自ら考える」前に「できない」「難しい」という先入観から考えることをあきらめてしまう児童もみられた。

また、「学びあう」姿を目指すために、「自分の考えを説明して自信をもつ」「考えを広げる、深める」等の目的に応じて、ペアやグループでの学習活動を取り入れ、少数の中で活発に意見交流ができるようにしたりした。さらに、全体交流の中では、児童が互いの考えを意識し、つながりのある話し合いになるように、相手に伝わるように話すことや自分の考えと比べながら相手の考えをきくことを意識させたり、「～さんの意見に似ている人はいる？」「～と思ったのはどうして？」などと児童に問い返したりした。

そうしたことで、全体活動の中で発表することが苦手な児童も、ペア活動やグループ活動の中では自分の考えを伝えることができたり、「〇〇さんによく似ている」「〇〇さんに付け足して」等のように意見がつながることで、学習内容を理解できたりする児童もみられた。

一方で、まだまだ一部の児童だけの発表で授業が進むことがあり、相手に分かりやすく伝える力や自分の考えと比べながらきく力が身につけているとは言えず、学びあいの場面において考えを広げたり深めたりすることが十分にできたとはいえなかった。

令和5年度は、研究主題の「自ら考え、学びあう子どもの育成」に向けて、副

主題として「わかりあう喜びを実感する授業づくりを目指して」を設定した。学習意欲が低下している児童にも、「できた・わかった」という自信や達成感を味わわせ、友だちに認められる機会をもたせることを大切にしてきた。

しかしながら、一定数の児童にとっては、「自分の考えをうまく言葉で表現することができない」「友だちの言いたいことがよく分からない」と感じることとなり、「わかりあう喜び」を実感させることへの難しさを感じた。そこで、わかりあうために、まずは伝えあいができることが大切であると考えた。

このような現状より、令和6年度は、令和5年度の「自ら考え、学びあう子どもの育成」という主題は継続し、それを実現していくために、副主題の「わかりあう喜びを実感できる授業づくりを目指して」を「伝えあう喜びを実感できる授業づくりを目指して」に改めた。互いに考えを伝えあう喜びを実感できるようにするために、国語科の物語文を中心に研究を進めていく。本校の児童にとって、物語文であれば登場人物を自分に置き換えやすく、自分事のように考え、気持ち等が想像しやすくなることで、自分の考えや思いを互いに伝えあうことにつながりやすくなると考えたからである。さらに、伝えあう学習を通して言葉を正確に理解し適切に表現するための資質・能力を育成することを大切にしていきたい。そして、伝えあう活動の中で「友だちの言いたいことがわかった」「友だちの考えをきいて自分の考えをもつことができた」「自分の思いや意見を相手に伝えることができた」という経験を積ませ、伝えあう喜びや達成感を味わえるようにしていく。うまくいかなかった時にこそ、互いが互いの考えや頑張りを認めあい、その頑張る姿勢を褒めあえる仲間関係を築けるようにし、主体的に学びあおうとする「自ら考え、学びあう子どもの育成」につながるよう取組を進めていく。

### 3 研究内容及び方法（具体的な手立てまで詳しく書いてください）

#### 1 国語科で目指す子どもの姿

##### 『自ら考える姿』

言葉の特質を理解し、適切に使う力を身に付け、言葉によって自分の考えをもったり、新しい考えを生み出したりする姿。

##### 『学びあう姿』

自分の思いや考え、疑問等を伝えあうことで、学びを確かなものにしたたり、広げたりする姿。

##### 『伝えあう喜びを実感する姿』

互いの思いや考え、疑問等を尊重しあいながら伝えあう中で、思いを伝えられたり、わかってもらえたり、新しいことに気付いたり、考えを広げたりできることへの喜びを感じる姿。

#### 2 自ら考え、学びあう子どもの育成に向けた取組

(1) 自ら考え、学びあう授業の学習過程モデルに沿った授業実践

「めあての提示」「発問・課題の提示」「自力解決」「学びあう」「まとめ・振り返り」の学習過程の流れを基本として「自ら考え、学びあう」授業づくりを進めていく。

##### ① めあての提示

「〇〇の気持ちの変化を読み取って考えを交流するのか。」

- ・学習活動の見通しをもつ。

##### ② 発問・課題の提示

「どのようにして考えていくの？」

- ・本時の課題をつかむ。
- ・課題解決のための方法について確認をする。

##### ③ 自力解決

「考えてみよう！やってみよう！」

- ・自分の考えをもつ。

- ・自分の考えをわかりやすく伝えるための言葉を考え表現する。

#### ④ 学びあう

「わかった！そうなんだ！そんな考えもあるんだ！」

- ・ペアやグループで交流する。
- ・全体で交流する。
- ・学習のねらいに応じて、全体交流・ペア活動やグループ活動を選択する。

#### ⑤ まとめ・振り返り

「わかった！もっとやってみよう！」

- ・課題に応じたまとめを書く。
- ・国語用語やキーワードなどを使って、めあてに応じた学びの振り返りをする。

### (2) 学びの基本となる学級づくり

児童が自分の思いや考えを安心して伝えあうことができるように、学級の中に自分の居場所があり、互いに思いや考えを尊重しあい、認めあえる学級づくりを行う。そのために、考えをもちにくかったり、発表することに自信がもてなかったりする児童にも「友だちの考えをきいて自分の考えをもつことができた」「自分の思いや意見を相手に伝えることができた」という経験を積ませ、伝えあう喜びや達成感を味わえるようにしていく。うまくいかなかった時にこそ、互いが互いの考えや頑張りを認めあい、その頑張る姿勢を認めあい、褒めあえる仲間関係を築けるようにしていくことを大切にする。

### (3) 基礎・基本としての国語の知識及び技能の習得

各学年の指導事項を確認し、前後の学年とのつながりを意識し、授業の言語活動のなかで国語の知識及び技能を身に付けさせられるように計画を立てる。

また、朝学等で、基礎的な問題（CBTワークシート・今日の一問、学Vivaドリル（セット）・「読む・書くワークシート」「よむYOMUワークシート」等）に繰り返し取り組ませていく。

また、国語科の用語・方法・原理・原則等を掲示したり、学習活動の中で提示したりする等をして、基礎的な知識や既習事項を活用できるような教室環境に整

える。

さらに、読書に親しむ子を育てていくことを大切にしていく。毎週金曜日には、朝学を読書の時間とする。その際に、担任や読書ボランティアの方々による読み聞かせ等も実施する。また、国語科の学習単元・教材と関連した本の並行読書をさせられるように教室環境を整える。その他にも、図書館巡回指導員や図書館アドバイザー等と連携して、ブックトーク、本の紹介等をしていただくことで、多くの本に触れさせ、本を読む楽しさや喜びを感じられるようにしていきたい。

図書委員会の読書イベントとして、委員会に所属する児童自身が考えたスタンプラリーやクイズ大会等を定期的に催し、積極的に本を借りる児童が増えるように取組を進めていく。

#### (4) ICT機器の効果的な活用

ICT機器を活用することで、テキストや写真だけでなく映像も授業に利用できるようにする。そして、子どもたちが授業中に受け取る視覚支援が充実することで、より理解しやすい授業づくりにつないでいくことを目指す。

例えば、情報収集場面において、画像・動画検索をしたり、音読発表会の動画撮影をして修正箇所を考えたり、プレゼンテーションソフトを活用した発表をしたりすることを目的に活用する。話しあいの場面では、教師がオクリンクに提出させたものを一覧表示、比較機能等を活用したりして学びを共有・比較検討させる。グループでGoogleのスライドを使って意見を集約したり、ドキュメントを使って作文の添削をしたりする等の協働的な学習にも活用していく。

しかし、ICTの使い方によっては、思考が途切れ、学びが深まりにくくなる場合もあるため、子どもにつけたい力を明確にし、そのために最適な学びのツールを選択していくことが必要である。

#### (5) 家庭学習習慣・読書習慣づけ

学習した内容を定着させることを目的として、音読・漢字・計算を毎日の家庭学習の基本としていく。年度初めには、各家庭へ「家庭学習の手引き」を配付

し、保護者の協力も得られるようにしていく。

さらに、学校と家庭との連携の強化を図っていくために、5月、10月、1月には、「家庭学習強化週間」を設定していく。「家庭学習＝与えられた宿題」と思っている児童が多く、「自分から勉強する習慣」が身に付いていないため、家庭での自主的な学習習慣が定着することをねらいとして、ステップアップ学習に取り組ませていく。3年生以上は、土日には必ず取り組むこととし、自分の興味や関心のある事柄を調べる学習などに取り組む児童が増えるように取り組ませていきたい。

他にも、読書習慣の定着と向上を図るため、家庭と連携して取り組んでいく。

実施後は、家庭学習・読書習慣強化週間記録カードの取組結果を教師がとりまとめ、学校だよりや学年だよりで家庭に還元し、さらなる定着と向上につながるようにしていく。

### 3 目指す子どもの姿を育むための手立て

(1) 自ら考える子どもの育成に向けて

～課題解決に向けて意欲をもち、表現できるようにするために～

○学習の見通しをもたせる。

- ・何について考えるのか、どんなことをするのか等、子どもたちがめあてをもって学習に取り組めるようにする。
- ・単元のまとまりを見通した授業を組み立てていく。

#### 【物語文の指導における具体的な手立て】

- ・場面ごとの「時」「場所」「登場人物」「おおまかな出来事」を初めの段階で整理し、物語の設定を押さえることで読みを深める土台をつくる。
- ・物語の概要を捉えさせる。「～～だった〇〇が、～～によって、～～になる話。」
- ・単元を通した学習課題を設定し、発問を考える。第1時で中心発問（どうして中心人物が大きく変容したのか、主題等→例：豆太は霜月二十日の晩に、勇気のある子どもに変わったのか。）について考えを交流させる。最後に、もう一度中心発問について考えることを伝える。

○個々の特性や学習進度、学習到達度等に応じて授業方法や教材を工夫する。

- ・学習課題を解決するためのキーワードとなる出来事や叙述について全体、あるいは個別で確認できるようにする。
- ・考えや意見等の表現の仕方のヒントとなる話型等（「○ページの○行目に○○と書いてあります。だから、○○だと思います。」「○○さんと似ていて○○と思います。」「結論→理由の順」「一つ目は○○です。二つ目は○○です。」）を全体、あるいは個別（考えを確認しながら途中まで表現の仕方を教える）で確認できるようにする。
- ・発表への自信をもたせるために、考えを書かせたら、それぞれにノート（オクリンク・スライド等）を見て回らせて、自分の考えを見直す時間もとる。
- ・机間指導を通して、指示した活動を行っているか、考えを表現することができるか等を確認し、修正したり、ヒントを与えたり、承認・励ましの声をかけたりする。

（２）学びあう子どもの育成に向けて

～自分の考えを伝えあうことで「学びあう」集団づくりを進めていくために～

○話す・きく力を育てる

- ・相手にわかりやすいように話すことや相手の考えを受け止めながらきくことを意識させる。
- ・よい話し手・聞き手をほめる（聞き手に向いて・はっきりと・話し手を見て・聞きもらさない・話し手を大事に・うなずいて）。
- ・自分の考えと比べながらきかせる。（よりよい考えは？どうしてこの考えがよいのか？よくないのか？など）同じ考えと違う考えの分類をしたり、考えを詳しくするための質問をもらったりする）→「どこから」「どうして」「どういうこと」
- ・聞き手に問いかけることで意識を高めさせる。  
「～さんの考えをきいて、どう思った？」など。
- ・きいた上で感じたことを率直に発言できる（つぶやける）雰囲気をつくる。
- ・「話すとき」「きくとき」に意識することとして教室に掲示したカード（低・高学年用２種類）を意識しながら、意見交流ができるように、適宜声掛けをす

ることと、意識できている児童を評価することを大切にする。

○目的のあるペア活動・グループ活動に取り組ませる。

・次の3つの目的を意識し、ペア活動やグループ活動を効果的に取り入れる。

①自分の考えをもったり確かなものにしたりする

②考えを広げたり深めたりする

③協働して考えを練り上げたり課題を解決したりする

**【物語文の指導における具体的な手立て】**

・意見の違いが生まれ、思考が揺さぶられる発問をする。

・「3つの問い」（「最も大きく変わったことは何か」「それはどのように変わったか」「それは、どうして変わったか」）をもって物語全体を深く読み返し、出来事の流れを明確に押さえつつ、人物の行動や心情、人物の変容を読み取らせる。

・「3つの切り返し」によって、場面と場面、人物の心情と行動、出来事の原因と結果といったつながりについて叙述を基に丁寧に読み取らせる。

①読みを深める（人物の言動や物語の設定を読み返す）「本当にそう言えるか？」  
「ほかの視点から見てもそうなのか？」「この言動でよかったのか？」→例：  
「ごんの考えたことは、どこまでが事実で、どこからが想像か？」

②読みを埋める（叙述にない部分を想像して埋めるために読み返す）「もしこの物語に続きがあったら？」「書かれていない間のところで何があったか？」  
「他の方法はなかったか？」→例：「きつつきの商売の3場面をつくろう」「豆太はこの後、どんな人になっていくのか？」

③読みを引き寄せる（自分事として読み返す）「自分がその立場だったらどうする？」  
「今までに似た経験をしたことはあるか？」→例：「あなたが、ごんだったら葬式の兵十の姿を見たとき、どう感じるか？」「あなたが豆太だったら、これからの夜はどうするか？」

#### 4 年間研修計画

学期	日程	内容
1 学期	4月17日（水）	第1回校内研修 ・今年度の研修の方向性 ・人権教育の取組
	4月26日～ 5月15日	全国学力調査・みえスタディ自校採点

	5月22日(水)	第2回校内研修 ・国語科における児童の実態・意識して取り組んでいること(各学年より) ・非認知能力について(指導課 村林先生・植村先生)
	5月13日～19日	家庭学習強化週間の実施・集約
	6月17日(月)	第3回校内研修 3年生 研究授業事前検討会
	6月25日(火)	第4回校内研修 3年生 研究授業・事後検討会(指導主事 鈴木先生)
	7月1日～5日	国語アンケートの実施・集約
	7月22・23・25日	夏休み補充学習(9:00～10:30)
	7月23日(火)	人権レポート研修会①(PM)
	7月25日(木)	平谷先生研修会(11:00～12:00)
夏季	8月1日(木)	第6回校内研修(14:00～) 全国学力調査・みえスタディの結果分析と自校の重点課題に対する今後の取組について  親子読書の取組(夏季休業中課題)
2学期	9月25日(水)	第7回校内研修 4年生 研究授業事前検討会
	10月1日(火)	第8回校内研修 4年生 研究授業・事後検討会(指導主事 鈴木先生)
	10月16日～22日	家庭学習強化週間
	10月22日	鼓中校区人権教育研修会
	11月11日～17日	読書・ノーマディア強化週間
	11月1日(金)	第9回校内研修 2年生 研究授業事前検討会
	11月13日(水)	第10回校内研修 2年生 研究授業・事後検討会(指導主事 鈴木先生)
	11月下旬頃	〇年生 国語科部会研授業
	12月中旬頃	〇年生 国語科部会研授業
	12月9日～13日	国語アンケートの実施

3 学 期	1月21日(火)	第11回校内研修 たんぼぼ学級 研究授業事前検 討会
	1月22日～28日	家庭学習強化週間
	1月29日(水)	第12回校内研修 たんぼぼ学級 研究授業・事後 検討会(指導主事 ○○先生)
	1月22日(水)	人権レポート研修会②
	2月12日(水)	第13回 校内研修会 「研修のふりかえり」
	2月3日～9日	読書・ノーメディア強化週間
	2月26日(水)	第14回 校内研修会 「研修のまとめ」